

今年も観音祭じんぐうじまつりは僧侶役員のみでの厳修となりました。しかし、昨年は厳修出来なかった火渡り行を無事に行えました。その後七日間は、後拝みと言う形で、自由に渡って頂ける様に開放しました。初めての試みでしたが、ちらほらと渡る方を見かけ、安堵しました。出来ない事に腹を立てるよりも、出来る事を見出し、そこに喜びを持てる寺であり続けたいと思いますので、どうぞ、これからも神宮寺を宜しくお願い致します。

久し振りの 良啓



全国的な緊急事態宣言解除を待って、約二年振りに、京都本山東寺で行われた研修会に参加しました。

東寺の五重塔は、いつもの様に高くどっしりと構え、コロナウィルスに右往左往している娑婆世界を力強く見守っていました。夜の散歩で鴨川を歩きましたが、相変わらず若者が等間隔に座り、それぞれに楽しんでいました。反面、観光客がとも少なく、のんびりとした京都に触れることができて不思議でしたが、良かったです。

さて、今回の研修は、二年後の令和五年開催の真言宗立教開宗千二百年記念法会の所作を学ぶ目的でした。沖繩では習う事も、法会が開かれる事ありませんから、法会独特の用語や動きなど学ぶ事がたくさんありました。また、ピリッとした空気感の中に身を置く事で、自分の感覚をリセットする事も出来ました。やはり、自分の原点に帰る事は、大切です。二十三歳の若者が壁の中で一年間何を思い、どんな修行を重ねたのか。師僧や老僧の言葉、振る舞いなど吸収した事を、しっかりと言動に出来ているのか。制限があり久し振りだったからこそ、思う事、考える事がたくさんあり、実り多い研修でした。

最後に、前段で触れましたが、令和五年は、お大師様が、東寺を嵯峨天皇から下賜され、真言宗を立ち上げて千二百年になる祈念の年です。本山東寺では様々な行事が開催されます。詳しい内容が分かり次第、案内致しますので、ご期待ください。



七五三

伊計七星

十一月に入り、朝夕はだいぶ涼しくなってきました。沖繩もやつと秋の訪れを感じる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、十一月といえば七五三です。子どもの成長を祝う行事として親しまれている七五三。その歴史は四百年前の江戸時代から続いており、由来はさらにさかのぼり平安時代の宮中で行われていた三つの儀式が基になっているそうです。三歳・五歳・七歳の節目に行う行事ですが、その数字にも意味があります。中国の陰陽五行説では奇数は陰と陽で分けると陽であり、とても縁起のいい数なのです！

また、七五三の日とされる十一月十五日(旧暦)が、陰陽道の「一陽来復(冬が去り春が来る、つまり難が去って良いことが始まる)」といわれる縁起の良い月であり、さらに十一月の十五日は鬼が歩かないとされる「二十七宿の鬼宿日(きしゆくにち)」にあたり、婚礼以外のお祝いには吉日とされています。縁起がいい月と日が重なっている十一月十五日は子どもの成長を祝う日にぴったりですね。日にちにもちゃんと意味が込められていることに、私自身調べて驚きました。由来や込められた意味を知ることが、行事もまたさらに違った見方ができ、楽しむことができるのではないのでしょうか😊

神宮寺でも、七五三健康祈願を承っているのですが、興味がある方はぜひお問い合わせくださいませ。

末筆ではございますが、季節の変わり目です。

ごじいますので、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

